思い出の写真シリーズ　第18回

長野市陸上競技協会　監事　平出　勲

「思い出の写真」という題で原稿依頼を受け、一瞬過ぎし日を回顧してみた。よき思い出はすぐには浮かんでこなかった。しばし思いを凝らしていた時、「あぁそうだ、オランダの選手と走ったあの時のことを書けばいいな」と・・・。

１９８８年ソウルオリンピックが開催された年、日本国内各地で調整合宿が行なわれた。長野市へはオランダチームが来た。ホテルは国際２１。

ある日、長距離の選手が走りたい旨の希望があり、その時のボディーガードとして一緒に走るはめになった。突然のことであったためネクタイをはずし、革靴のままの姿で走った。英語は苦手であったため、ジェスチャーや片言の英語であったが、結構通じていた。コースは協議した結果、信大前を右折直進し、大門通りを下って昭和通りを右折、県庁前を右折してホテルへもどるという定をした。

長距離を苦手としているので途中でダウンするのではないか、そうなったらそうなったでの思いであった。スローペースでは失礼と思い、信大までは坂道であったが、ほどほどのスピードをもって駆け上がった。２人の選手は心配そうに私を見ていた。信大前を右折し、派出所の当たりへ着く頃には、からだ中汗ばんできた。ズボンが脚に巻きつき、走りずらかったが、一段とスピードを増した。大門通りは下りだから、まあなんとかなるだろうという、思いがあった。買い物客の間をすり抜けながら下った。旧富士銀行へ差し掛かる頃に息苦しさを感じた。２人は相変わらず私を心配しながら走っている。そこで、「ネクスト、ライトタウン、プリーズ」自分を指差して「オーバーワーク、ギブアップ」再び「プリーズ、ネクスト、ライトタウン」ジェスチャーで示すと「アンダスタンド」そこから２人で走ってもらった。県庁前で待っていると、２人はにこやかに手を振りながら「サンキュー、サンキュー」と言って握手を求めてきた。

よき思い出の１つとして脳裏にこびりついている。

編　集　後　記

平成２０年５月１８日付の信毎に東日本実業団陸上（埼玉県熊谷市）女子１万ｍで渋井陽子、北京五輪参加標準記録Ａ突破となる31分21秒92の大会新記録で優勝、100ｍは塚原直貴が10秒64で２位となる記事がでていた。これから日本選手権、北京出場をかけての戦いがはじまる。北信高校陸上、五月晴れの東和田、誠に気持ち良い天候である。オリンピックの開催される中国、四川大地震、124時間ぶり女性救出の見出し。日本でも新潟県山越村の地震、対岸の火事などと言っていられない。日本からも緊急援助隊協力、女性と娘の遺体を収容し、次の現場と頑張っております。長野では何事もなく競技会ができるように祈るのみです。

また今回も原稿等、ご協力いただき誠にありがとうございます。

平成20年6月　広報部長　若松軍蔵

長野市陸協会報
第 21 号
平成20年6月20日
発行所　長野市陸上競技協会
発行人　浦野義忠
編集人　若松軍蔵

題字の"動き"は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会報紙として何号か発行されていました。

市町村対抗駅伝　９連覇達成

主将　前島啓一

９連覇を達成した今年のレースは、前半４区間を走った中高生の好走が勝因だと言って過言ではないと思います。

昨年は、駒ヶ根に強い中学生がいて後半でようやく追いつき、競り合う展開でしたが、今年は、１区で先頭が見える２１秒差、その後も常に先頭が見える位置で１つずつ順位を上げ、４区の小田切亜希選手でトップに立ち、引き離すという理想の展開となりました。伸び盛りの中高生とはいえ、４区までの長野市のタイムは昨年の長野市より１分２５秒も早く、２位以下に１分差をつける快走は、後半４区間の一般選手がリラックスして走れ、終わってみれば、２位に２分１７秒差をつける大会記録を更新する最高の優勝となりました。

これは、選手１人１人の頑張りはもちろんのこと、練習環境を整えて頂いている市の関係者の皆様、日頃指導いただいている先生方、選手の家族の協力、一緒に練習をしているチームの皆さんの支えがあってこその結果だと改めて感謝致します。本当にありがとうございます。

来年は、いよいよ１０連覇への挑戦です。この挑戦はこの先何度もできることではありません。ここまで連覇を築いてきた選手に感謝しながら、今年の長野市を上回るチームで１０連覇を勝ち取りたいと思っております。

その為には、今年の中高生は４人とも３年生なので来年は全員抜けてしまいますが、１・２年生の指導、強化を各学校の先生方にお願いするとともに、一般選手の若返りと戦力強化をし、来年へのチーム作りをしていきたいと思っています。特に今年の一般選手は独走になってしまったせいか、後半の４区間は昨年の長野市のタイムを２秒下回ってしまいました。独走のレースでも競り合いと同様の走りができるよう精神力の強化が１０連覇に向けて必要だと考えています。今後ともみなさんのご支援を宜しくお願い致します。

平田和也

５月６日に、第１８回市町村対抗駅伝大会が、松本市を舞台に開催されました。大会当日は、天候にも恵まれ、まさに駅伝日和でした。

今大会は、長野市チームの９連覇がかかる大会でもありました。その中で、私は、第６区を走らせていただきました。エントリーの時点では、補欠要員として登録されていましたが、どの区間を走ることになっても大丈夫なようにしっかり準備してきました。昨年は、大会の近くになって故障してしまい、出場できなかったので、今年は、走れる喜びというものを感じながらの出場でした。

レースは、予想していた通り、１位でタスキを受け取りました。ここでの役割として少しでも後ろのチームとの差を広げることだと思い走りました。前半は思い通りの感じで走れたのですが、ゆるい上りが続く後半は、スピードに乗っている感じがしなく、思い通りの走りができませんでした。それでも、区間賞を獲得することができ、少しではありますが、チームに貢献することができ、また、優勝することができたのでよかったです。今大会で優勝することができたのは、チームメイトの方々のおかげです。

今後は、夏から秋にかけてやってきたことに自信をもっていけるように、しっかり練習して１１月の県縦断駅伝で優勝できるように、そして、来年の市町村対抗駅伝で１０連覇できるように頑張っていきたいです。

全国小学生クロスカントリー大会に出場して

玉城かんな

私達、川中島ＪＲＣは、３月に大阪で行われた「全国小学生クロスカントリーリレー」に出場しました。そのキップを手にするために、毎日きびしい練習をしてきてこのすばらしい舞台で走れることが決まりました。

大阪へ行く日は、朝練をし、大阪へ出発しました。新幹線ではみんなでワイワイと楽しかったです。大阪に着いたら、重い荷物を持ち、開会式が行われる小学校へ行きました。開会式が終わると、チキンラーメンの工場へ行ってカップラーメンの事やたくさんの事をして楽しい思い出が出来ました。宿泊するホテルに着いて、夕食やお風呂に入り１日が終わりました。

本番当日は、朝からすごく緊張しました。バスで本番の会場へ行き、アップをしたり着替えをしました。召集の時間になると、本当にこの夢の舞台で走れるんだと思い、緊張が高まりました。「よーいドン」ピストルの音と共に１区の選手がスタートしました。私は５区を走ることになっていたので、２区、３区とどんどん呼ばれていくうちに、もっと緊張したけど、「みんな同じ小学生」と思い、自分の番が来るまで待っていました。４区の選手が帰って来ました。「２０番」ゼッケンの番号が呼ばれ、別に並びました。タスキをもらうと監督から言われた通り、最初から飛ばしていきました。登りがあってきつかった所も、仲間や家族、いろんな人に「頑張れ」と応援され、頑張りました。そして、タスキをもらった位置で６区の人へタスキを渡しました。１人も抜かせず悔しかったけど、これが私が今ある力だと思い、満足でした。結果は１２位。区間も１２番。入賞できなかったけど、今までで１番の思い出です。今年は、県のルールで全国大会には行けないけれど、今の後輩に頑張ってもらい、再来年もこんな夢の舞台を走ってほしいです。私も、この経験を生かしてこれからも、陸上を頑張っていきたいです。

コーチ　玉城さつき

昨年７月、白馬クロスカントリー大会において、県で１位となり、今年３月２３日、大阪にて全国小学生クロスカントリーリレー大会に川中島ＪＲＣは出場させて頂くことができました。初の全国大会ということと、親元を離れ、チームの仲間と宿泊をし大会を迎え、子供達は緊張と不安はあったと思いますが、とても貴重な経験をさせて頂くことができました。

大会当日は、それぞれ任された区間、そして個人レースに出場した選手も、長野県代表として、すばらしい走りをすることができました。子供達が皆で立てた目標は「入賞！」。結果は５０チーム中１２位でした。入賞という目標を達成することはできず、悔しい思いをしましたが、みんな笑顔で長野へ帰ってくることができました。

県のルールにより、連続出場はできませんが、この全国大会の経験から、また新たな目標に向かい、毎日練習を頑張っています。

子供達と一緒に全国大会の体験をさせて頂き、「来年もこの大会へ出場したい！」という気持ちが本音ですが、全国で戦う喜びや感動、そして走る楽しさを、長野県の多くの子供達が味わって頂きたいと思いました。

第16回 ホープさん

松代高校
太田 朗

僕は、小学校４年生から陸上を始めました。今年で９年が経とうとしています。そして、今年、高校生活も高校生としての陸上も最後になってしまいました。

僕が通った小学校、中学校には陸上部がなく、週１度の町の陸上クラブで練習していました。しかし、週１度の練習では少ないため、毎日１人で練習を続けていました。結果、中学生の時、全国大会に行けなかったけれど、北信越に出場することができました。それから、進路が決まり、正式に松代高校陸上部に所属することになりました。

松代高校は、練習環境が良くありません。グランドは、野球・サッカーと合同なので、陸上部はいつも隅の直線だけです。ウエイトトレーニングをやると言っても、冬でも雪の降る中でもやっています。昨年60Mのターターンを敷いていただき、少しずつ陸上ができる環境になってきました。

このように練習環境はそれほどよくなく、部員数も１９人と多くはありませんが、全員が毎日頑張っています。もちろん僕も毎日頑張っていますが、２年生の頃は自分の不注意で怪我が絶えませんでした。去年の１２月の練習中、これから冬期練習が本格的に始まるという時に、着地に失敗し、左足首を剥離骨折。その結果、１ヶ月間ギブスを付け、松葉杖での生活でした。ものすごく辛く苦しい日々が続きました。本当に不安と焦りしかありませんでした。他のみんなが走っていると羨ましく思っていました。でも、下條先生や医者から「できることやればいい、北信越とインターハイまで時間がある」と言われ、できることを必死でやりました。

今、その結果はまもなく出ようとしていますが、常にベストを尽くし、自分自身の為に悔いの残らないようインターハイ入賞を目指して、また、下條先生をはじめ助けてもらっている人達に感謝の気持ちを忘れず、頑張りたいと思います。

シーズンが開幕して

長野市陸上競技協会　会長　伊藤利博

シーズンが開幕して、早２ヶ月が過ぎようとしておりますが、毎週毎週、土・日曜日に繰り広げられる競技会へ手弁当を持ち、一日中審判に携わっていただく会員の皆様方には、頭の下がる思いで一杯です。ボランティア活動とはいえ、若い競技者のために、労力を惜しまず尽くして下さる皆様方に心より感謝を申し上げます。

第１０回を迎えた長野マラソン、第４回の車いすマラソンにも、会員の８０％に当たる９６名の審判員が重要なポジションについていただき、無事成功裡に終了することが出来たのも、長野市陸協の会員の皆様方のお陰だと思っています。

現在のマラソンコースも５年が経過して、公認の期限が切れますので、若干の手直しをしながら、いろいろな点を配慮して、選手達にとりまして走り易い、また、記録の出易いコースの検討をしております。長野市駅伝部の皆様方を始めとして、関係する方々にご協力をいただかなければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

競技の方に目を向けてみますと、長野市駅伝部の市町村駅伝９連覇達成、川中島ジュニアクラブの全国大会出場、高校伊那駅伝の長野東高校女子の活躍、また、高校の県大会における長野吉田高校男女、長野東高校女子、長野日大高校男子の活躍等、長野市陸協の関係する活躍が目覚ましく、大変嬉しく思うこの頃です。これから全国大会への出場権を争う、高校では北信越大会、中学校では県大会もせまってきますが、どうか長野市内から多くの全国大会出場者が出てくれることを願っています。

最後になりましたが、長野市陸協が主催する北信選手権大会が５０回を迎えるに当たり、記念大会の準備が進められています。ぜひ会員の皆様方に盛り上げていただきたいと思っております。最近、私達と共に陸協を支えていただいた方々の訃報が多くなってきました。どうぞお体にはくれぐれも留意されて、長野市陸協発展のために、今年もご協力の程よろしくお願い申し上げます。

松澤　正氏の死を悼む（享年72歳）

平成20年4月28日逝去

長野市陸上競技協会　理事　鈴木文雄

松澤さんが陸上競技の審判員資格を取得されたのは、不 惑を越えた後だったと思います。日赤の指導員をはじめとして数々の団体の役員・会員として活躍されていて、多才・多忙の身でありながら資格取得され、競技場では、跳躍審判を中心に活躍されました。跳躍審判員として、研鑽に励まれていて、どの種目の審判を任されてもそつなくこなし、松澤さんがいればその種目は安心でした。また、控え室においては、持ち前のレクリエーション指導関係の問題を出し、その場にいる審判員の脳の活性化をしてくれたりもしていました。

ご自身、権堂に飲食関係の店を持ち、長野市陸協の総会の二次会にその店に会員を誘って飲酒することもありました。長野市陸協の審判員と連携を保つことにも心を砕いていた姿を思い出します。

ここ数年の間、闘病の為、数度の手術をされ、心身ともに大変お辛い時にも、長野・松本の競技場、その他の場面において競技審判員として競技者に対しての指導をされていました。晩年は手術の影響で少々言葉も不自由なようにお見受けしていましたが、松澤さんのバイタリティで競技者に対して指導・アドバイスをされていました。私だったら、このように命を懸けて熱心な指導ができるだろうかと思い、今後の審判活動にその精神を受け継いでいけたらと考えています。松澤さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌

陸上クラブ紹介 No.17 更級農業高校陸上競技部

長野市陸協の皆様には、日頃、大変お世話になっております。また今回は、長野市陸協会報で本校陸上部を紹介させていただきますこと光栄に思います。

更農陸上部も、ここ数年、部員数が増え、現在、男子１９名、女子９名の計２８名で活動しています。最近ではさまざまな大会で活躍する者が多くなってきており、先日の北信大会では対抗戦で男子８位、女子７位と、久しぶりに上位に入ることができました。また、県大会には１２名の部員が出場し、男子三段跳で東海林祐也が２位、女子砲丸投で小林茜が３位に入賞して、北信越大会への出場を決めています。このような成績をおさめられるようになったのも、本校に併設されている長野養護学校更級分教室の小林靖志先生の熱心なご指導と毎日の練習の賜物と感じています。練習は、朝練が８時から３０分程度、放課後の練習が４時から２時間程度、日曜日以外年間を通じて行なっています。部員達たちの力は国体の強化指定選手からまったの素人まで差がありますが、お互いに励ましあいながら、自らの目標に向かって熱心に励んでいます。

私は、陸上競技を通じて、目標に向かって努力し、その目標を成し遂げた時の喜びと、陸上部という集団の中で、人への思いやりや優しさを育んで欲しいと思っています。最近は、部員達も少しずつ私の思いを感じ取ってくれているように思います。子供たちが人間として一回りも二回りも大きく成長し、立派な大人となってくれることを願いながら、そして、インターハイや国体など全国規模の大会に１人でも多くの部員が参加し、その喜びを部員全員で分かち合うことができる日を夢見て、これからも生徒たちと一緒にがんばってゆきたいと思います。

更級農業高校　陸上競技部顧問　長原正夫